

1 クロミフェンで卵巣を刺激する

- クロミフェンを月経3日目から10~12日間 (hCG投与日の朝まで) 内服します
- クロミフェンを継続することで排卵を引き起こすLHサージをある程度抑制できます

3 hCGで卵を成熟させる

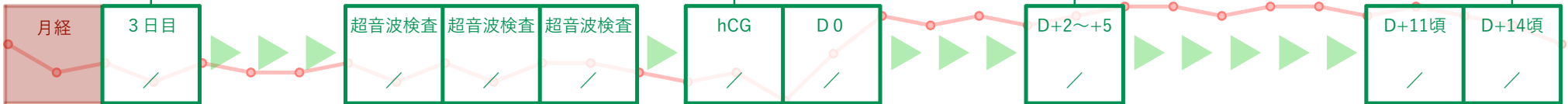
- GnRHアンタゴニストを使っている場合は朝で終了します
- 21:00 (時間厳守) にオビドレルを自己注射します
- プセレリンを両鼻に1回ずつ噴霧します
- OHSS回避のため全胚凍結する場合はカベルゴリンを夜から8日間内服してください

5 胚移植

- 食事を普通にとり、ナプキン、生理用ショーツを持参ください
- 【手順】 胚培養士の説明→着替え→胚移植→希望があれば病室で静養
- ※ 胚移植後に月経様の出血があっても着床していることがあるので、薬を使い続けて予定どおりに来院してください

7 妊娠判定

- 採血して妊娠を判定します
- プロゲステンを終了します



クロミフェン

hCG

GnRHアゴニスト

- 月・水・木：14:00来院
- 火・金・土：11:30来院

※受付終了1時間以上前に来院ください

[保険 / 自費]
 ※ 今回の治療を計画した時点で43歳未満であれば保険適用です (前回保険適用で全胚凍結した後の初回の凍結胚移植を除きます)。
 ※ 保険適用の治療周期では先進医療ではない保険適用外の検査や治療 (PRP療法、PGT、タクロリムス療法など) を併用できません。

hMG

- 月経7~8日目からhMG [] 単位を隔日で自己注射します

[/ . / . / . /]

- 卵胞径が20mmを超えるまで継続します
- 注射が長引いた場合は排卵を抑えるGnRHアンタゴニストを毎日午前中に使います
 - 自費の場合：レルミナ内服
 - 保険の場合：ガニレスト皮下注

プロゲステン

- 朝食を軽くとり、ナプキン、生理用ショーツを持参し、8:00に入院入口のインターホンで来院を伝えて2階ナースステーションにお越しください
- 【手順】 着替え→鎮痛坐剤を挿入→採血と点滴→採卵→病室で静養→昼頃に胚培養士が説明
- 夜からプロゲステンを使います
 - ワンクリノン腔用ゲル (1日1回) 腔内に挿入
 - カテーテルが入りづらい方は頸管拡張を行います

- 採血して着床を確認します

クロミフェン法

2 hMGで卵胞を約20mmまで育てる

4 採卵・採精

6 着床確認

